

令和4年9月定例会市議会

行政報告要旨

総社市

本日、9月定例市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、万障お繰り合わせの上ご出席くださいます。誠にありがとうございます。また、日頃から市議会の皆様には、新型コロナウイルス感染症対策へのご協力と、議会運営に格別のご配慮を賜り、重ねてお礼申し上げます。

1) 切迫の危機から市民を守る

社会は少しずつ、「ウィズ コロナ」としての日常を取り戻しつつあります。この夏、実に三年振りに、清流まつりや雪舟フェスタが開催され、市民がこぞって参加、大盛況となりました。

一方、新型コロナウイルスの猛威が止まりません。令和2年10月20日、本市で初めてとなる陽性者が確認され、先月19日には過去最大、176人の新規感染者数を記録しました。爆発的な感染者増加、長期化したコロナ禍による経済不安。切迫の危機に、不安を抱え^{あんたん}暗澹たるお気持ちの市民もおられます。

(自宅療養者支援の強化)

本市感染者数は累計7,000人を突破。新型コロナウイルスは、市民の1割以上が感染経験のある、誰が罹患しても不思議はない感染症となりました。私自身も、先月感染。

10日間の自宅療養では、誰にも面会できない、長い長い孤独と不安を味わいました。

自宅療養を余儀なくされた市民の動揺と苦悩を、実際に私も痛感いたしました。この経験を市政に反映させ、徹底的に寄り添った自宅療養者支援の実施、これに全庁体制で取り組んでまいります。

(市民への経済的支援の加速)

市民が今まさに直面する、長期化したコロナ禍や世界情勢による経済不安、物価高騰。この対策として、先月10日から「そうじゃ物価対策応援券」を販売、現在、

4億2,731万5千円を売り上げ、市内事業者や市民の家計を応援しているところです。加えて、さらに強力で市民生活を下支えするため、今議会では3つの支援策をお諮りしま

す。

1つ目は、小・中学校の給食費減額です。小・中学生約6,000人が毎日食べる給食、これを半年間1食当たり30円減額。子育て世帯の経済的負担を和らげ、経済不安、物価高騰の脅威から、子どもたちを守ってまいります。

2つ目は、運送事業者への支援です。運送事業者は、市民生活を物流面から支える、必要不可欠な社会インフラの一つです。その無くてはならない運送事業者が、原油高の直撃であおいきといき青息吐息の危機的状況にあります。快適で豊かな市民生活を確実に維持する。そのため、市内に本社がある運送事業者に支援金を交付したいと考えております。

3つ目は、米農家への支援です。現代日本では多くの方が米を主食としていますが、日本の食を支える米の生産者が、コロナ禍の影響等による米価下落に苦しみ、廃業の危機に晒されています。米農家を守り、ひいては市民の食卓を断固として守る。そのため、米の買取価格一俵当たりの上限を14,000円とし、最大4,000円の上乗せを行う支援を実施したいと思います。

平穩な市民生活を脅かす脅威の数々に有効に対応すべく、ご審議の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

2) もっとずっと「住み続けたくなる総社」へ

本市は12年連続転入超過を続け、7万人達成が秒読みの状態まで人口を増加させてきました。しかし、昨年11月をピークに人口は減少しはじめ、現在は一進一退、いよいよ人口減少段階に突入するかどうかの瀬戸際にあります。移住者に選ばれ続ける総社、市民に「住み続けたい」と思っただけの総社。そうあり続けるためには、更に何が必要なのか、今、緊迫感を持って検討すべきです。

(「子育て王国そうじゃ」の強化)

本市のゆるぎない信念は、社会的弱者への徹底した寄り添いです。そして最も大切にすべきは、総社の将来を担う子どもたちです。「子育て王国そうじゃ」の強化、この具体策を講じてまいります。

何よりも、幼稚園の魅力化が待ったなしの課題です。現在、

市内の保育所は、定員を超えた受け入れをして下さっていますが、一方で幼稚園には定員に空きがあります。

幼稚園を魅力化し、幼稚園に行かせたい保護者を増やすために、何が必要か。これまで検討を進めてまいりましたが、まずは、萱野議員や三宅議員など議会からもご提案があり、かねてから保護者の要望も大きかった、幼稚園での給食提供を、令和5年度からスタートいたします。預かり保育の拡充を推進し、教育環境を充実させ、多様化している保護者のニーズに対応できる幼稚園を、情熱を持って、つくり上げてまいります。

また、総社の未来を担う子どもたちには、豊かな情緒を育み、感性を磨き、多くの喜びを得る人生にしてほしいと、切に願っています。そこで、文化芸術をより身近に楽しんでもいただくため、今年度から小・中学校で「学校美術館」を実施します。本市には、高木聖鶴先生や高木聖雨先生、平山郁夫先生の作品や、「雪舟の里総社 墨彩画公募展」の受賞作品など、約1,300点以上にも上る美術品が所蔵されています。「学校美術館」は、それらの作品を子どもたちに最も身

近な学校で展示し、鑑賞の機会を提供する試みです。今年度は、総社小学校、阿曾小学校、総社中学校などで実施し、次年度以降は他の学校で同様に実施する予定です。

(窮地に立つウクライナ避難民への支援)

グローバル化が急速に進展するこの現代社会、基礎自治体と言えど、世界と自分とのつながりに思いを馳せ、国際情勢に高い関心を持つべきだと私は考えます。

ロシアによるウクライナ侵攻は、いまだやむ気配がありません。本市は、今年4月にウクライナ避難民支援を表明しました。4月13日、私自身が外国人在留支援センター^{フレスク}田平センター長と面会、調整を続けた結果、先月25日に避難民のチジェンコ・アロナさんをお迎えいたしました。そして、まさに先ほど、アロナさんを本市会計年度任用職員として任用させていただきました。ご本人が希望される就労が決まるまでの間、母国でも携わっておられた芸術関係のプロデュースのほか、学校でウクライナ事情や平和の大切さを講演していただきます。「総社が第二のふるさと」、そう思ってい

ただけるよう、全力でサポートしてまいります。

(人とペットが共に暮らしやすい社会へ)

ペットは、家族の一員として共に生きていく、人にとって極めて大事な存在です。そして、いかに大事に育てていても、災害や事故で不幸にも迷子になり、飼い主と離れ離れになるペットが多くいます。もしマイクロチップが入っていれば、ペットの確実な身元証明となり、飼い主と再会できる可能性が飛躍的に向上します。今年6月、犬猫へのマイクロチップの装着がペットショップなどに義務付けられ、既に飼われている方には努力義務となりました。この装着努力義務者が負担すべき施術費用の全額、上限5,500円を、同一年度1世帯2匹まで補助し、多くのペットとその飼い主が安心して暮らせるまちを目指します。

(将来の総社を守るためのカーボンニュートラル)

近年、毎年のように発生する大きな水害、その一因は気候変動と言われています。気候変動の原因となる温室効果ガス

の抑制，カーボンニュートラルの実現は，人任せにせず，今この瞬間にも，一人ひとりが行動すべき問題です。本市では，カーボンニュートラルに取り組む市民を強く後押しするため，市内在住者や市内に本社を置く法人を対象に，電気自動車等導入時に15万円を助成します。将来世代にとっても，住みよい，住み続けたい総社市を目指し，市民と共に取り組んでまいります。

3) 6月議会での検討について

ここで，6月議会での検討事項につき，その結果をご報告いたします。

小野議員から，生涯学習センター建設基金運用益を活用した，駐車場整備についてのお尋ねがありました。これについては，早急な対応が必要と認識されたため，基金取り崩しではなく，既決予算の範囲内で既に補修を完了しております。

また，三宅議員から，市役所の男性職員の育児休業取得率を公表してはどうかとのご意見がありました。これについては，市ホームページへ，男性職員の取得率も含めて，育児休

業の取得状況を掲載いたしております。

不安定な社会情勢が長引く中，より一層市民に寄り添い，市民一人ひとりの幸せを追求してまいります。

議員の皆様をはじめ，市民の皆様におかれましても，これまでと変わらぬご理解と，ご協力をお願い申し上げ，私からの行政報告とさせていただきます。